



## 平成27年3月期 決算短信〔日本基準〕(連結)

平成27年5月15日  
上場取引所 東

上場会社名 花月園観光株式会社  
コード番号 9674 URL <http://www.kagetsuenkanko.co.jp>  
代表者 (役職名) 代表取締役社長 (氏名) 松尾 嘉之輔  
問合せ先責任者 (役職名) 総務部長 (氏名) 堤 道雄  
定時株主総会開催予定日 平成27年6月26日 有価証券報告書提出予定日 平成27年6月26日  
配当支払開始予定日 —  
決算補足説明資料作成の有無 : 無  
決算説明会開催の有無 : 無

TEL 045-228-8860

(百万円未満切捨て)

### 1. 平成27年3月期の連結業績(平成26年4月1日～平成27年3月31日)

#### (1) 連結経営成績

(%表示は対前期増減率)

	売上高		営業利益		経常利益		当期純利益	
	百万円	%	百万円	%	百万円	%	百万円	%
27年3月期	387	—	93	—	83	—	90	—
26年3月期	—	—	—	—	—	—	—	—

(注) 包括利益 27年3月期 97百万円 (—%) 26年3月期 1百万円 (—%)

	1株当たり当期純利益	潜在株式調整後1株当たり 当期純利益	自己資本当期純利益 率	総資産経常利益率	売上高営業利益率
	円 銭	円 銭	%	%	%
27年3月期	5.14	—	9.9	5.0	24.2
26年3月期	—	—	—	—	—

(参考) 持分法投資損益 27年3月期 △8百万円 26年3月期 1百万円

#### (2) 連結財政状態

	総資産	純資産	自己資本比率	1株当たり純資産
	百万円	百万円	%	円 銭
27年3月期	1,922	959	49.9	54.60
26年3月期	—	—	—	—

(参考) 自己資本 27年3月期 959百万円 26年3月期 1百万円

#### (3) 連結キャッシュ・フローの状況

	営業活動によるキャッシュ・フロー	投資活動によるキャッシュ・フロー	財務活動によるキャッシュ・フロー	現金及び現金同等物期末残高
	百万円	百万円	百万円	百万円
27年3月期	267	△391	296	226
26年3月期	—	—	—	—

(注) 平成26年3月期の数値及び対前期増減率につきましては、連結財務諸表を作成していないため記載しておりません。

### 2. 配当の状況

	年間配当金					配当金総額 (合計)	配当性向 (連結)	純資産配当 率(連結)
	第1四半期末	第2四半期末	第3四半期末	期末	合計			
	円 銭	円 銭	円 銭	円 銭	円 銭	百万円	%	%
26年3月期	—	—	—	0.00	0.00	—	—	—
27年3月期	—	—	—	0.00	0.00	—	—	—
28年3月期(予想)	—	—	—	0.00	0.00	—	—	—

### 3. 平成28年3月期の連結業績予想(平成27年4月1日～平成28年3月31日)

(%表示は、通期は対前期、四半期は対前年同四半期増減率)

	売上高		営業利益		経常利益		親会社株主に帰属する 当期純利益		1株当たり当期 純利益
	百万円	%	百万円	%	百万円	%	百万円	%	円 銭
第2四半期(累計)	506	—	38	—	30	—	18	—	1.07
通期	985	153.9	54	△42.3	37	△55.1	21	△76.3	1.22

(注) 平成26年3月期第2四半期は連結財務諸表を作成していないため対前年同四半期増減率を記載しておりません。

※ 注記事項

(1) 期中における重要な子会社の異動(連結範囲の変更を伴う特定子会社の異動) : 有  
新規 1社 (社名) 株式会社サテライト横浜、除外 1社 (社名)

(2) 会計方針の変更・会計上の見積りの変更・修正再表示

- ① 会計基準等の改正に伴う会計方針の変更 : 無  
② ①以外の会計方針の変更 : 無  
③ 会計上の見積りの変更 : 無  
④ 修正再表示 : 無

(3) 発行済株式数(普通株式)

① 期末発行済株式数(自己株式を含む)	27年3月期	17,666,000 株	26年3月期	17,666,000 株
② 期末自己株式数	27年3月期	88,235 株	26年3月期	85,255 株
③ 期中平均株式数	27年3月期	17,579,189 株	26年3月期	17,583,465 株

(参考)個別業績の概要

1. 平成27年3月期の個別業績(平成26年4月1日～平成27年3月31日)

(1) 個別経営成績

(%表示は対前期増減率)

	売上高		営業利益		経常利益		当期純利益	
	百万円	%	百万円	%	百万円	%	百万円	%
27年3月期	387	5.9	93	70.1	92	67.2	91	66.4
26年3月期	366	20.6	55	231.1	55	145.1	54	△61.1

	1株当たり当期純利益	潜在株式調整後1株当たり当期純利益
	円 銭	円 銭
27年3月期	5.18	—
26年3月期	3.11	—

(2) 個別財政状態

	総資産		純資産		自己資本比率		1株当たり純資産	
	百万円	%	百万円	%	百万円	%	円 銭	
27年3月期	1,835		960	52.3			54.65	
26年3月期	1,466		863	58.9			49.10	

(参考) 自己資本 27年3月期 960百万円 26年3月期 863百万円

2. 平成28年 3月期の個別業績予想(平成27年 4月 1日～平成28年 3月31日)

(%表示は、通期は対前期、四半期は対前年同四半期増減率)

	売上高		経常利益		当期純利益		1株当たり当期純利益
	百万円	%	百万円	%	百万円	%	
第2四半期(累計)	179	△6.7	22	△59.4	20	△62.5	1.16
通期	342	△11.7	37	△59.3	33	△62.8	1.93

※ 監査手続の実施状況に関する表示

この決算短信は、金融商品取引法に基づく監査手続の対象外であり、この決算短信の開示時点において、連結財務諸表に対する監査手続が実施中です。

※ 業績予想の適切な利用に関する説明、その他特記事項

(将来に関する記述等についてのご注意)

本資料に記載されている業績見通し等の将来に関する記述は、当社が現在入手している情報及び合理的であると判断する一定の前提に基づいており、その達成を当社として約束する趣旨のものではありません。また、実際の業績等は様々な要因により大きく異なる可能性があります。業績予想の前提となる条件及び業績予想のご利用にあたっての注意事項等については、添付資料P.2「1. 経営成績・財政状態に関する分析(1)経営成績に関する分析」をご覧ください。

## ○添付資料の目次

1. 経営成績・財政状態に関する分析 .....	2
(1) 経営成績に関する分析 .....	2
(2) 財政状態に関する分析 .....	2
(3) 利益配分に関する基本方針及び当期・次期の配当 .....	4
(4) 事業等のリスク .....	4
2. 企業集団の状況 .....	5
3. 経営方針 .....	6
(1) 会社の経営の基本方針 .....	6
(2) 目標とする経営指標 .....	6
(3) 中長期的な会社の経営戦略及び会社の対処すべき課題 .....	6
4. 会計基準の選択に関する基本的な考え方 .....	6
5. 連結財務諸表 .....	7
(1) 連結貸借対照表 .....	7
(2) 連結損益計算書及び連結包括利益計算書 .....	9
連結損益計算書 .....	9
連結包括利益計算書 .....	10
(3) 連結株主資本等変動計算書 .....	11
(4) 連結キャッシュ・フロー計算書 .....	12
(5) 連結財務諸表に関する注記事項 .....	13
(継続企業の前提に関する注記) .....	13
(企業結合等関係) .....	13
(セグメント情報等) .....	13
(1株当たり情報) .....	14
(重要な後発事象) .....	14
6. その他 .....	14
(1) 役員の変動 .....	14
(2) 開示の省略 .....	14

## 1. 経営成績・財政状態に関する分析

### (1) 経営成績に関する分析

#### ① 当期の経営成績

当連結会計年度におけるわが国経済は、政府の経済政策や日銀の金融緩和等を背景に、企業業績や雇用情勢に改善が見られるなど、景気は緩やかな回復基調で推移したものの、消費税率引き上げによる個人消費低迷の懸念等により、景気の先行きは依然として不透明な状況が続いております。

当社グループが事業の主体をおく競輪業界におきましては、車券総売上高が23年ぶりに前年度を上回り、明るい兆しも見られたものの、一方では、購買単価の減少傾向や発売チャネルの多様化などから、依然として厳しい経営環境が続いております。

当社グループにおいては、福島第一原子力発電所事故の影響により、長期休業となったサテライトかしま及びサテライト横浜内にオープンしたオートレース横浜が通年営業となり、また、平成23年11月7日付をもって、5年以内の買戻しを条件に譲渡した株式会社サテライト横浜の全株式を、更なる事業基盤の強化を図るべく、本来の買戻し期限を前倒しし、平成27年3月31日付をもって取得することにより、再度の子会社化を果たしました。

このような状況のもと、当社グループはナイター発売日数の増加や顧客サービスの向上に努め増収を図るとともに、一方では、各サテライトの更なる効率的な管理・運営に努め、また、役員報酬カットの継続や退職者不補充による人件費の削減等を行い、利益増加に努めました。

以上の結果、当連結会計年度の売上高は、3億8千7百万円、営業利益9千3百万円、経常利益8千3百万円、当期純利益は、固定資産売却益等により、9千万円となりました。

なお、株式会社サテライト横浜は、当連結会計年度末日に連結子会社となったため、当期の業績を当連結会計年度の損益には含めておりません。

部門別の概況は次のとおりであります。

#### <サテライト部門>

サテライト部門におきましては、ナイター発売日数を増加させ増収に努めた結果、サテライト石鳥谷の売上高は、購買単価の増加により5千3百万円、サテライトかしまの売上高は、通年営業により8千9百万円、サテライト水戸の総合運営管理業務受託収入等は4千6百万円、株式会社サテライト横浜からの業務受託収入は、オートレース横浜との相乗効果により会員数が増加し、1億8千6百万円となりました。

以上の結果、サテライト部門の売上高は、3億7千6百万円となりました。

#### <営業部門>

営業部門におきましては、地方競馬の場外発売所であるジョイホース関係の売上高が、派遣人員の減少等により1千1百万円となり、営業部門の売上高は、同額の1千1百万円となりました。

#### ② 次期の見通し

今後の当社グループを取り巻く経営環境は、ファンの高齢化及び発売チャネル多様化の影響や、購買単価の減少傾向からも、依然として厳しい状況が続くものと思われまます。

このような状況のもと、当社グループは既存の各サテライトの更なる効率的な管理・運営と顧客サービスの向上に努めるとともに、グループベースでの徹底した経費削減により、目標とする経営指標でもある営業利益の確保継続に向け、グループ一丸となって取り組んでまいります。

次期の見通しにつきましては、売上高9億8千5百万円、営業利益は株式会社サテライト横浜株式買戻しによるのれん償却費3千1百万円の計上により5千4百万円、経常利益3千7百万円、親会社株主に帰属する当期純利益2千1百万円を見込んでおります。

### (2) 財政状態に関する分析

#### ① 資産、負債及び純資産の状況

当連結会計年度末の資産につきましては、株式会社サテライト横浜の子会社化による資産3億6千3百万円の受け入れ等により19億2千2百万円となりました。

負債につきましては、株式会社サテライト横浜の株式買戻し資金として長期借入金4億円、同社の子会社化による負債の引き受け2億5千6百万円がありましたが、株式買戻しに長期預り金1億3千万円を充当したこと等により9億6千2百万円となりました。

純資産につきましては、当期純利益9千万円の計上等により、9億5千9百万円となり、自己資本比率は49.9%となりました。

## ② キャッシュ・フローの状況

当連結会計年度における現金及び現金同等物(以下「資金」という。)は、税金等調整前当期純利益9千6百万円を計上し、資金支出を伴わない減価償却費4千8百万円、長期借入れによる収入4億円、未払消費税等の増加1千9百万円、有形固定資産の売却による収入1千5百万円、預り金の増加7千1百万円等がありました。子会社株式取得による支出3億6千2百万円、差入保証金の差入による支出5千万円、借入金・リース債務の支払9千7百万円があったこと等により、2億2千6百万円となりました。

当連結会計年度における各キャッシュ・フローの状況とそれらの要因は次のとおりであります。

## ＜営業活動によるキャッシュ・フロー＞

営業活動の結果得られた資金は2億6千7百万円となりました。当連結会計年度は、税金等調整前当期純利益9千6百万円を計上、資金支出を伴わない減価償却費4千8百万円、預り金の増加7千1百万円があったことが主な要因です。

## ＜投資活動によるキャッシュ・フロー＞

投資活動の結果使用した資金は3億9千1百万円となりました。これは主に、子会社株式取得による支出3億6千2百万円、差入保証金の差入による支出5千万円がありましたが、有形固定資産の売却による収入1千5百万円があったことによるものです。

## ＜財務活動によるキャッシュ・フロー＞

財務活動の結果得られた資金は2億9千6百万円となりました。これは主に、長期借入れによる収入が4億円ありましたが、長期借入金の返済による支出が4千6百万円、リース債務の返済による支出が5千1百万円あったことによるものです。

## ＜参考＞

なお、当社グループのキャッシュ・フロー指標のトレンドは下記のとおりであります。

	平成24年 3月 期(単体)	平成25年 3月 期(単体)	平成26年 3月 期(単体)	平成27年 3月 期(連結)
自己資本比率 (%)	49.3	59.2	58.9	49.9
時価ベースの自己資本比率 (%)	116.6	118.4	100.7	95.1
債務償還年数 (年)	0.5	2.9	4.6	2.7
インタレスト・カバレッジ・レシオ	13.3	8.5	7.3	18.5

(注) 1. 計算式は、以下のとおりであります。

自己資本比率＝自己資本÷総資産

時価ベースの自己資本比率＝株式時価総額÷総資産

債務償還年数＝有利子負債÷営業キャッシュ・フロー

インタレスト・カバレッジ・レシオ＝営業キャッシュ・フロー÷利払い

2. 指標のうち、平成24年3月期から平成26年3月期は単体ベースの財務数値により算出し、平成27年3月期は株式会社サテライト横浜を連結いたしましたので連結ベースで算出しております。
3. 株式時価総額は、期末株価終値×期末発行済株式数(自己株式控除後)により算出しております。
4. 営業キャッシュ・フローは、連結キャッシュ・フロー計算書の営業活動によるキャッシュ・フローを使用しております。有利子負債は、貸借対照表に計上されている負債のうち利子を支払っている全ての負債を対象としております。また、利払いについては、連結キャッシュ・フロー計算書の利息の支払額を使用しております。

(3) 利益配分に関する基本方針及び当期・次期の配当

当社は、株主の皆様への業績に対応した利益還元を経営の最重要課題の一つとして位置付け、経営成績及び今後の見通しや、長期事業展開に備えるための内部留保等を総合的に勘案し、安定配当を継続することを基本方針としてまいりましたが、旧花月園競輪場車券売上高の減少に伴い、平成14年3月期より配当を見送らざるを得ない状況となりました。

当期の配当金につきましては、財務状況等を勘案し、無配とさせていただく予定であり、また、次期の配当につきましても、当社が事業の主体をおく競輪業界においては引き続き厳しい状況が続くものと思われ、無配とさせていただく予定であります。

今後とも当社は一日も早い復配に向け、全社一丸となって取り組んでまいります。

(4) 事業等のリスク

当社グループの経営成績、財政状態及び株価等に影響を及ぼす可能性のある事項には、以下のようなものがあります。

①資金の調達に関するリスク

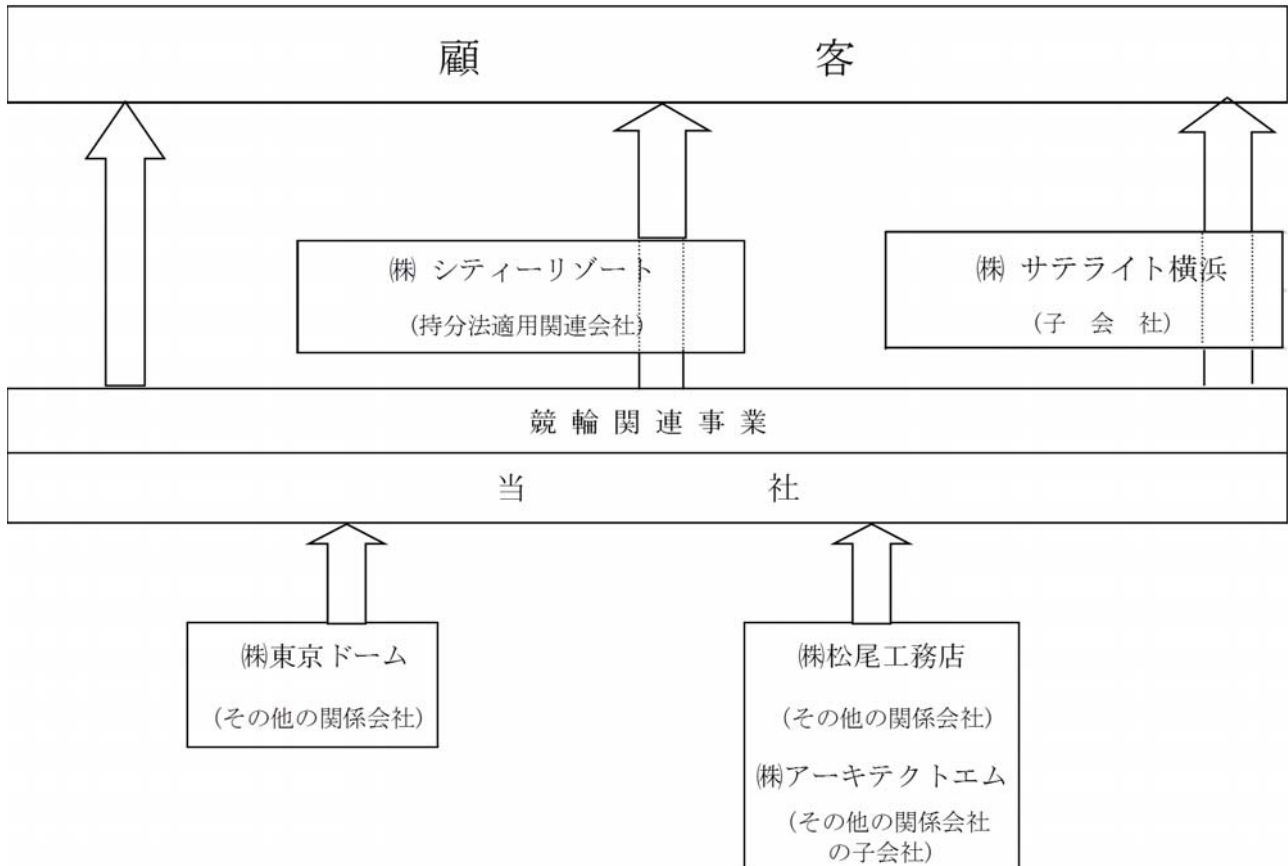
資金調達については、金融機関からの借入金により必要資金は調達できておりますが、将来も引き続き十分に調達可能であるという保証はありません。

②減損会計に関するリスク

当社及びグループ各社の収益性が著しく低下した場合には、当社及びグループ各社の保有する土地・建物・のれん等について減損損失の計上が必要となることも考えられ、その場合は、当社グループの業績及び財務状況に影響を与える可能性があります。

2. 企業集団の状況

事業系統図



株式会社松尾工務店は当社施設の建築工事等を行っております。株式会社東京ドームとの間には継続的な事業上の取引関係はありません。

また、当社は、株式会社サテライト横浜から場外車券売場の運営を受託しております。なお、株式会社サテライト横浜は平成27年3月31日に子会社となりました。詳細は5. 連結財務諸表 (5) 連結財務諸表に関する注記事項 (企業結合等関係) をご覧ください。

また、当社が25%出資し地方競馬場外馬券発売所を運営する株式会社シティーリゾート(資本金10百万円)は、当連結会計年度の連結決算開始に伴い、持分法の適用範囲に含めております。

事業内容

主な事業の内容	会社名
サテライト(競輪専用場外車券売場)の賃貸及び各種公営競技投票券発売所の運営受託	花月園観光株式会社(当社) 株式会社サテライト横浜 株式会社シティーリゾート

### 3. 経営方針

#### (1) 会社の経営の基本方針

当社グループは、「夢のある環境と心のこもったサービスを提供し社会に喜びを広げていく」という事業活動の基本理念に則り、社会の人々に豊かでゆとりのあるレジャー施設を提供するために経営活動を続けてまいりました。

この基本理念のもと、当社グループは今後ともサービスの向上に努め、経営環境の変化に的確に対応するとともに、社内構造改革を強力に推進し、株主・お客様・取引先・従業員・地域社会など全てのステークホルダーに信頼され続けるために、今後とも一層の努力を重ねてまいります。

#### (2) 目標とする経営指標

当社グループは、今後の経営環境の変化を踏まえながらより収益性の高い企業を目指し、営業利益の確保を経営目標といたします。

#### (3) 中長期的な会社の経営戦略及び会社の対処すべき課題

当社グループは、次の経営戦略と課題に取り組んでまいります。

##### ①新規運営受託・コンサルタント業務の獲得

花月園競輪事業並びにサテライト事業で培ったノウハウを活かし、他公営競技を含む本場及び場外発売施設の運営受託・コンサルタント業務の獲得に努めてまいります。

##### ②既存の各施設の複合型場外化

当社グループは既に、横浜市に開設する競輪専用場外車券売場「サテライト横浜」内にオートレース場外車券売場「オートレース横浜」をオープンさせ、複合型場外化を果たしましたが、今後は残る各施設の複合型場外化を積極的に推進してまいります。

##### ③サテライトかしま自社遊休地の有効活用

福島第一原子力発電所事故の影響を受け、2年以上の長期に亘る休業を余儀なくされたサテライトかしまについては、平成25年6月6日付をもって営業を再開いたしました。今後は、駐車場等として使用していた未使用部分自社地の賃貸等による有効活用につき、引き続き検討してまいります。

##### ④既存の各施設運営の効率化

当社グループは既に、岩手県に開設する「サテライト石鳥谷」において、安定した賃貸料収入確保を目的として車券発売業務等の外部委託を実施し、また、「サテライトかしま」においても、キャッシュアウト削減を目的とし、投票機器等業者持込みにての外部委託を実施しております。当社グループは、今後とも既存の各施設における運営の効率化に取り組むとともに、各施設の管理施行者等とも協議し共通の諸問題に対処してまいります。

##### ⑤新規サテライト等の開設

当社グループは既に、競輪専用場外車券売場「サテライト石鳥谷」及び「サテライトかしま」並びに「サテライト横浜」を、また、地方競馬場外発売所「ジョイホース浜松」を開設しております。当社グループはこれらに続く新規場外発売所開設に向け、関係各団体からの情報収集に努め、今後とも積極的に取り組んでまいります。

### 4. 会計基準の選択に関する基本的な考え方

当社グループは、国際的な事業展開や資金調達を行っておりませんので、日本基準に基づき連結財務諸表を作成しております。



## 5. 連結財務諸表

## (1) 連結貸借対照表

(単位：千円)

		当連結会計年度 (平成27年3月31日)
資産の部		
流動資産		
現金及び預金		226,602
売掛金		84,764
その他		27,131
流動資産合計		338,498
固定資産		
有形固定資産		
建物		949,516
減価償却累計額		△549,279
建物(純額)		400,236
構築物		105,111
減価償却累計額		△87,289
構築物(純額)		17,821
機械及び装置		3,563
減価償却累計額		△3,277
機械及び装置(純額)		286
車両運搬具		778
減価償却累計額		△739
車両運搬具(純額)		38
工具、器具及び備品		26,617
減価償却累計額		△17,325
工具、器具及び備品(純額)		9,291
土地		443,206
リース資産		227,516
減価償却累計額		△88,945
リース資産(純額)		138,571
有形固定資産合計		1,009,453
無形固定資産		
のれん		317,086
その他		7,868
無形固定資産合計		324,954
投資その他の資産		
投資有価証券		59,753
関係会社株式		4,290
長期貸付金		51,153
差入保証金		133,448
その他		1,146
投資その他の資産合計		249,792
固定資産合計		1,584,200
資産合計		1,922,698

(単位:千円)

当連結会計年度 (平成27年3月31日)	
<b>負債の部</b>	
流動負債	
1年内返済予定の長期借入金	73,200
リース債務	53,344
未払金	62,463
未払法人税等	7,903
未払消費税等	28,131
預り金	74,807
その他	163
流動負債合計	300,013
固定負債	
長期借入金	486,950
リース債務	110,131
繰延税金負債	22,333
退職給付に係る負債	22,558
負ののれん	10,759
その他	10,142
固定負債合計	662,876
負債合計	962,890
純資産の部	
株主資本	
資本金	883,300
資本剰余金	399,649
利益剰余金	△330,554
自己株式	△10,659
株主資本合計	941,735
その他の包括利益累計額	
その他有価証券評価差額金	18,072
その他の包括利益累計額合計	18,072
純資産合計	959,808
負債純資産合計	1,922,698

(2) 連結損益計算書及び連結包括利益計算書  
(連結損益計算書)

(単位:千円)

	当連結会計年度 (自 平成26年4月1日 至 平成27年3月31日)
売上高	387,994
売上原価	63,893
売上総利益	324,101
販売費及び一般管理費	
役員報酬	42,600
給料及び手当	85,837
福利厚生費	23,572
減価償却費	5,453
のれん償却額	2,233
その他	70,451
販売費及び一般管理費合計	230,148
営業利益	93,953
営業外収益	
受取利息	5,492
受取配当金	1,064
負ののれん償却額	4,165
保険解約返戻金	4,493
その他	222
営業外収益合計	15,438
営業外費用	
支払利息	14,648
持分法による投資損失	8,803
その他	2,025
営業外費用合計	25,477
経常利益	83,913
特別利益	
固定資産売却益	9,348
受取設備負担金	5,131
特別利益合計	14,479
特別損失	
関係会社清算損	1,393
特別損失合計	1,393
税金等調整前当期純利益	96,999
法人税、住民税及び事業税	8,145
法人税等調整額	△1,461
法人税等合計	6,683
少数株主損益調整前当期純利益	90,315
当期純利益	90,315

(連結包括利益計算書)

(単位:千円)

	当連結会計年度 (自 平成26年4月1日 至 平成27年3月31日)
少数株主損益調整前当期純利益	90,315
その他の包括利益	
その他有価証券評価差額金	6,684
その他の包括利益合計	6,684
包括利益	97,000
(内訳)	
親会社株主に係る包括利益	97,000
少数株主に係る包括利益	-

## (3) 連結株主資本等変動計算書

当連結会計年度(自平成26年4月1日 至平成27年3月31日)

(単位:千円)

	株主資本				
	資本金	資本剰余金	利益剰余金	自己株式	株主資本合計
当期首残高	883,300	399,649	△420,870	△10,378	851,700
当期変動額					
当期純利益			90,315		90,315
自己株式の取得				△281	△281
株主資本以外の項目の 当期変動額(純額)					-
当期変動額合計	-	-	90,315	△281	90,034
当期末残高	883,300	399,649	△330,554	△10,659	941,735

	その他の包括利益累計額		純資産合計
	その他有価 証券評価差 額金	その他の包 括利益累計 額合計	
当期首残高	11,388	11,388	863,089
当期変動額			
当期純利益			90,315
自己株式の取得			△281
株主資本以外の項目の 当期変動額(純額)	6,684	6,684	6,684
当期変動額合計	6,684	6,684	96,719
当期末残高	18,072	18,072	959,808

## (4) 連結キャッシュ・フロー計算書

(単位:千円)

	当連結会計年度 (自 平成26年4月1日 至 平成27年3月31日)
<b>営業活動によるキャッシュ・フロー</b>	
税金等調整前当期純利益	96,999
減価償却費	48,372
のれん償却額	2,233
負ののれん償却額	△4,165
受取利息及び受取配当金	△6,556
支払利息	14,648
持分法による投資損益(△は益)	8,803
有形固定資産売却損益(△は益)	△9,348
売上債権の増減額(△は増加)	12,762
未払消費税等の増減額(△は減少)	19,206
預り金の増減額(△は減少)	71,902
その他	25,808
小計	280,668
利息及び配当金の受取額	6,556
利息の支払額	△14,444
法人税等の支払額	△4,884
営業活動によるキャッシュ・フロー	267,895
<b>投資活動によるキャッシュ・フロー</b>	
有形固定資産の売却による収入	15,332
差入保証金の差入による支出	△50,035
保険解約返戻金の受取額	4,493
連結の範囲の変更を伴う子会社株式の取得による支出	△362,491
関係会社の整理による収入	1,106
投資活動によるキャッシュ・フロー	△391,593
<b>財務活動によるキャッシュ・フロー</b>	
長期借入れによる収入	400,000
長期借入金の返済による支出	△46,200
リース債務の返済による支出	△51,156
割賦債務の返済による支出	△6,345
自己株式の取得による支出	△281
財務活動によるキャッシュ・フロー	296,016
現金及び現金同等物の増減額(△は減少)	172,318
現金及び現金同等物の期首残高	54,283
現金及び現金同等物の期末残高	226,602

## (5) 連結財務諸表に関する注記事項

(継続企業の前提に関する注記)

該当事項はありません。

## (企業結合等関係)

当連結会計年度(自平成26年4月1日 至平成27年3月31日)

取得による企業結合

## 1. 企業結合の概要

## (1) 被取得企業の名称及びその事業の内容

被取得企業の名称 株式会社サテライト横浜

事業の内容 競輪及びオートレースの専用場外車券売場の施設賃貸及び運営受託

## (2) 企業結合を行った主な理由

当社は、事業基盤の安定化と有利子負債の圧縮を図るため、平成23年11月7日付をもって、5年以内の株式の買戻しを条件として、株式会社サテライト横浜の全株式を株式会社アーキテクトエムに譲渡いたしました。

株式譲渡後当社は、平成25年3月期に6期ぶりの営業利益及び経常利益の確保に伴い全利益項目で黒字を計上し、引き続き、前期(平成26年3月期)も全利益項目で黒字を計上いたしました。

このような状況のもと、更なる事業基盤の強化を図るべく、本来の買戻し期限を前倒しし、株式会社サテライト横浜の全株式を取得することといたしました。

## (3) 企業結合日

平成27年3月31日

## (4) 企業結合の法的形式

現金を対価とする株式取得

## (5) 結合後企業の名称

変更ありません。

## (6) 取得した議決権比率

100%

## (7) 取得企業を決定するに至った根拠

当社による現金を対価とする株式取得であること。

## 2. 当連結会計年度に係る連結損益計算書に含まれる被取得企業の業績の期間

株式会社サテライト横浜の当期の業績は、企業結合日が当連結会計年度末日のため、当連結会計年度に係る連結損益計算書に含まれておりません。

## 3. 被取得企業の取得原価及びその内訳

取得の対価 現金 424,000千円

## 4. 発生したのれんの金額、発生原因、償却方法及び償却期間

## (1) 発生したのれん金額

316,927千円

## (2) 発生原因

今後期待される将来の超過収益力によるものであります。

## (3) 償却方法及び償却期間

10年間の均等償却

## 5. 企業結合日に受け入れた資産及び引き受けた負債の額並びにその主な内訳

流動資産	117,527千円
固定資産	245,917千円
<u>資産合計</u>	<u>363,445千円</u>
流動負債	110,710千円
固定負債	145,662千円
<u>負債合計</u>	<u>256,372千円</u>

## (セグメント情報等)

## 【セグメント情報】

当連結会計年度(自平成26年4月1日 至平成27年3月31日)

当社グループは、競輪関連事業の単一セグメントであるため、記載を省略しております。

## (1株当たり情報)

	当連結会計年度 (自 平成26年4月1日 至 平成27年3月31日)
1株当たり純資産額	54.60円
1株当たり当期純利益金額	5.14円

(注) 1. 潜在株式調整後1株当たり当期純利益金額については、潜在株式が存在しないため記載しておりません。

2. 1株当たり当期純利益金額の算定上の基礎は、以下のとおりであります。

	当連結会計年度 (平成27年3月31日)
当期純利益金額(千円)	90,315
普通株式に帰属しない金額(千円)	—
普通株式に係る当期純利益金額(千円)	90,315
期中平均株式数(千株)	17,579

## (重要な後発事象)

該当事項はありません。

## 6. その他

## (1) 役員の異動

確定次第別途開示をいたします。

## (2) 開示の省略

下記の注記事項については、決算短信における開示の必要性が大きいと考えられるため、開示を省略しております。

- ・連結財務諸表作成のための基本となる重要な事項
- ・連結貸借対照表関係
- ・連結損益計算書関係
- ・連結包括利益計算書関係
- ・連結株主資本等変動計算書関係
- ・連結キャッシュ・フロー計算書関係
- ・リース取引関係
- ・金融商品関係
- ・有価証券関係
- ・デリバティブ取引関係
- ・退職給付関係
- ・ストック・オプション等関係
- ・税効果会計関係
- ・資産除去債務関係
- ・賃貸等不動産関係
- ・関連当事者情報